

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 28日

兵庫県知事 殿

提出者

住所 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-1-1

氏名 三井住建道路㈱開発環境事業部  
執行役員開発環境事業部長戸村 昇

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 044-322-8300

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	兵庫県内管轄工事
事業場の所在地	兵庫県内
計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項 <b>別紙1, 2のとおり</b>	
①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	60,000万円
③従業員数	5人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	建設汚泥 → 固化剤添加 → 再生砂 廃プラスチック → 圧縮 → 固形燃料 金属くず → 破砕 → 金属材料 コンクリート片 → 破砕 → 再生骨材 廃アスファルト → 破砕 → 再生骨材 木材 → 圧縮 → 固形燃料

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		別紙1, 2のとおり	
(管理体制図) 事業部長		ISO管理部	
管理責任者		管理部	
	安全環境委員会	営業部	
		工事部	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		別紙1, 2のとおり	
①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	排出量	39.6 t	246.4 t
	(これまでに実施した取組) 現場での分別を徹底する		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	排出量	40 t	200 t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き現場分別を徹底する		
産業廃棄物の分別に関する事項		別紙1, 2のとおり	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 内装解体時における手作業での分別、重機を用いたコンクリートガラと付着土のふるい分け		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き現場分別を徹底する		

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

別紙1, 2のとおり

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

別紙1, 2のとおり

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 **別紙1, 2のとおり**

①現状	<b>【前年度（令和 3年度）実績】</b>		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

**別紙1, 2のとおり**

①現状	<b>【前年度（令和 3年度）実績】</b>		
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	全処理委託量	39.6 t	246.4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	<b>【目標】</b>	<b>別紙1, 2のとおり</b>	
	産業廃棄物の種類	0600 廃プラスチック類	0800 木くず
	全処理委託量	40 t	200 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

現状：前年度(令和3年度)実績量

計画：今年度(令和4年度)計画量

単位:トン/年

産業廃棄物の種類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項									
	排出量 (前年度実績値の①)		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の②+⑥)		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑤)		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑦)		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の③+⑨)		全処理委託量 (前年度実績値の⑩)		優良認定処理業者への処理委託量 (前年度実績値の⑪)		再生利用業者への処理委託量 (前年度実績値の⑫)		認定熱回収業者への処理委託量 (前年度実績値の⑬)		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 (前年度実績値の⑭)	
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
0100燃え殻																				
0200汚泥																				
0300廃油																				
0400廃酸																				
0500廃アルカリ																				
0600廃プラスチック類	39.6	40										39.6	40							
0700紙くず																				
0800木くず	246.5	200										246.5	200							
0900繊維くず																				
1000動植物性残渣																				
1100ゴムくず																				
1200金属くず																				
1300ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	10,300	30,000										10,300	30,000							
1400鉱さい																				
1500がれき類																				
1600動物のふん尿																				
1700動物の死体																				
1800ばいじん																				
2440がれき(石綿含み)	4.8	0																		
合計	10590.9	30240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10586.1	30240	0	0	0	0	0	0	0

別紙2（廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書）

1 当該事業場において行っている事業に関する事項

①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	60,000万円
③従業員数	5人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	建設汚泥 → 固化剤添加 → 再生砂 廃プラスチック → 圧縮 → 固形燃料 金属くず → 破砕 → 金属材料 コンクリート片 → 破砕 → 再生骨材 廃アスファルト → 破砕 → 再生骨材 木材 → 圧縮 → 固形燃料

2 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項（管理体制図等，別紙を参照）

事業部長

ISO管理部

管理責任者

管理部

安全環境委員会

営業部

3 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 現場での分別を徹底する
②計画	(今後実施する予定の取組) 引き続き現場分別を徹底する

4 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 内装解体時における手作業での分別、重機を用いたコンクリートガラと付着土のふるい分け
②計画	(今後、分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き現場分別を徹底する

5 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組)
②計画	(今後実施する予定の取組)

6 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組)
②計画	(今後実施する予定の取組)

7 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組)
②計画	(今後実施する予定の取組)

8 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組)
②計画	(今後実施する予定の取組)

管理体制図の例

